

プロフィール

中学生の時にネパールの少女が直面する差別と貧困の話を読んでショックを受けたことがきっかけで開発の道を志す。大学で国際開発学を専攻後、広告・人材サービス企業に6年半勤務しビジネスについて学びながら学資をため、大学院で持続可能な開発学を専攻。大学院在学中に参加した紛争解決プログラムに感銘を受け、同プログラムのプログラムコーディネーターとして米国とネパールで働く。海外研修中は UNDP (国連開発計画) ネパールで元兵士の社会復帰支援のプログラムに携る。現在はビジネスを通じて貧困解決を目指す投資財団のグローバルフェローとして、ナイジェリアの社会企業の事業拡大をサポートしている。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

大学院在学中に紛争解決のプログラムに携わり、30 カ国以上からきた参加者の紛争体験の話聞いた経験から、平和構築は開発やビジネスの発展の前提条件としてなくてはならない要素だと感じるようになりました。その本質をより理解したいと考えている時に平和構築人材育成事業の案内を受け取り、「正に私が必要としている分野だ」と思ったのがきっかけです。紛争は、暴力や貧困、人としての尊厳が失われること、社会的正義の欠落、差別などと密接な繋がりがあります。その根源的要因を正しく分析し、解決策を提案し、各関連機関と連携しながらどのように具体的に行動できるかなど、平和構築分野において欠かせないスキルを得られるまたとない機会だと思いました。また、当時はネパールに住んでいたのですが、研修場所が故郷の広島で行われるというのにも縁を感じ、この事業に是非参加したいと強く思ったのを覚えています。

2. 国内研修の感想は？

本当に参加してよかったの一言に尽きる、充実した研修でした。まず何よりも贅沢だったのは、素晴らしい講師陣です。当時の私のノートには、国内外の第一線で活躍する講師陣の40名以上のお名前とお話された内容が記されていますが、この機会でなければ、これ程の方と短期間にお会いし、お話を伺うだけでなく共にディスカッションをするという密度の濃い時間を過ごすチャンスは得られなかったと思います。

また、研修内容は非常に体系的でわかりやすく、海外実務においてすぐに使える実践的なものでした。単なる座学ではない、講師と研修生の双方向のコミュニケーションにより進められる参加型の研修は、インプットとアウトプットのバランスが取れた非常によく練られたもので、毎日が学びの刺



【研修初日の様子】

激にあふれていました。国内研修が終わってからも、講師の方とは関連分野に関する質問でアドバイスを頂いたり、キャリアの相談に乗ってもらったり、その後の報告をしたりと何かとお世話になっており、本当に貴重なネットワークを得られたと感じています。

国内研修での学びを豊かにしてくれたもう一つの大きな要因は、日本から 15 名・アジアから 14 名参加した、様々なバックグラウンドをもつ研修同期生の存在です。泊まり込みの研修ですので、研修生は毎日顔をあわせ、寝食を共にします。その中で、喧々諤々の議論を交わし、時には土にまみれてほふく前進をし、週末には日本の文化紹介として節分の豆まきをしたり、各国の料理を持ち寄ってインターナショナル・ディナーの日を作ったり、オープンマイクで一芸披露をしたりと、文化の違いを超えてお互いを理解する機会も多くもちました。密度の濃い時間を過ごす中で、彼らから学ぶことも沢山ありました。今は世界中に散ってしまった研修同期達ですが、今でもよく連絡をとっています。

充実した講師陣による包括的な研修内容から得た学び、多様なバックグラウンドをもった同期、そして研修によって得られた人脈は、何よりもかけがえのない財産です。

3. 海外実務研修での活動内容・感想を教えてください。

海外実務研修では、UNDP ネパールの UN Interagency Rehabilitation Programme (UNIRP) に、レポーティングオフィサーとして派遣されました。ネパールでは 1996 年から 2006 年まで、ネパール政府軍とマオイスト派ネパール人民解放軍との間で「人民戦争」と呼ばれる内戦が起っています。その後の国連の調査により、停戦協定終結時点で 18 歳以下だった少年兵や協定後もリクルートされ続けた兵士が、ネパール人民解放軍内に 4000 名以上いたということが、国連による後の調査によって判明します。彼らは 2009 年にネパール人民解放軍から除隊されるのですが、多くの除隊兵はまだ 10 代で、市民として生計を立てる手段もスキルも持っておらず、故郷の家族からは歓迎されないという状況にありました。彼らのための職業訓練、学校へもう一度戻るサポート、家族も含めたカウンセリング、スモールビジネスの起業支援、地域の方と共に行う平和構築イベントなどを通じて、彼らの社会復帰をサポートしました。

私の具体的な仕事内容は、社会復帰サポートの活動の現場に出向いて取材した様子や地方オフィスから上がってきたデータをまとめてドナーや政府関連機関向けの報告書を作成したり、リソース・ライブラリーを作ったり、上がってくるレポートの数字や内容のファクト・チェックを行うことなどでした。その他にも、メディアに流すプレスリリースの下書きをしたり、UNDP のホームページに載せる情報を送ったり、急に必要になった追加のファンドを申請するドキュメントを作成したりと様々な



【除隊され、駐屯地から故郷に戻る元兵士たち。そのうち3割が女性】

り、常に締切りに追われる毎日でした。渾身の作と思って上げた原稿が真っ赤に訂正されて戻ってきてがっかりしたり、たった一言の表現のための議論で疲れ果てたり、自分の英文を書くスピードや表現の限界に苦しむことも多くありましたが、振り返ってみると、学びが多くとても楽しい1年間だったと思います。特に、カウンセリングや新しい仕事を通じて自信を取り戻していく元少年少女兵たちの姿を間近で追うことができたのは、とてもやりがいがありました。中でも、女性兵士やカースト最下層にいた元兵士のリハビリテーション・プロセスは、私個人がジェンダー平等や貧困をなくすことに興味があったこともあり、強い思い入れがありました。インタビューをしていて、ある元兵士がその半生を静かに振り返りながら、「ずっと見下された蔑称で呼ばれてとても辛かったけれど、自分で店をもってからは村の人が『サフジ（尊称を含む店の主人という意味）』と呼んでくれるようになってやっと自分が人として認められた気がした」としみじみと語ったときは、聞いていて涙がでそうになりました。

このプログラムは、UNDP, UNICEF, UNFPA, ILO の4の国連機関による合同プロジェクトで、それぞれの機関が専門分野における強みを持ち寄ることで、包括的なサポートを行えるように設計されていました。各機関の橋渡し役のようなこともしていたので、国連各機関の性格や意思決定プロセス、タスクの進め方なども非常に勉強になりました。UNIRP でも人に恵まれ、プロジェクトマネジャーをはじめとして、真摯に元兵士達の社会復帰に真摯に取り組む同僚たちと仕事ができたととても感謝しています。



【インタビュー風景】

4. 就職先での活動について教えてください。

現在は、アキュメン・ファンドという米国・インド・パキスタン・ケニア・ガーナに拠点を置いている NPO 財団のフェローとして、ナイジェリアの企業の事業拡大のサポートを行っています。アキュメンは、「貧しい人のためシェルター・水・食料を配る」という従来型の援助アプローチではなく、「貧しい人も買うことができる廉価で質のいい製品・サービスを提供している社会企業に財政的・人的な投資型支援をする」ことで、ビジネスの活性化を通じた貧困削減に取り組んでいる財団です。投資先企業に対する財政的な支援としては、最近よく取り上げられる言葉ですが、「ペイシエント・キャピタル（忍耐強い資本）」という短期的なリターンを求めず長期的・社会的なリターンをもとめる投資を行っています。人的な支援スキームとしては、



【ナイジェリアで、スタッフの方と一緒に】

投資先企業に対する財政的な支援としては、最近よく取り上げられる言葉ですが、「ペイシエント・キャピタル（忍耐強い資本）」という短期的なリターンを求めず長期的・社会的なリターンをもとめる投資を行っています。人的な支援スキームとしては、

本来であれば途上国のベンチャー企業では働くことはないけれども、もし実際そこで働けば社会的なインパクトを上げられると期待できる人材を世界中から探してきて、投資先に派遣するという事業を行っています。私はその人的支援スキームの一環として、2013 年末からナイジェリアのパガテックというベンチャー企業に派遣されています。

ナイジェリアでは、銀行サービスを受けられない人達（口座が開けるほど貯蓄がなかったり、貧しい女性だったりするために銀行に相手にされず、そのせいで機会を失っている、人口の 6 割を超える人達）のために、携帯電話で小口からの貯金や送金ができるサービスの開発・拡充に携わっています。パガテックは成長著しい会社で、社員の皆さんはとても優秀で熱心で、日本や欧米よりもずっと浸透している e マネーについて学ぶのはとても面白いと感じています。新しい文化や慣習について実地で学びながら、何ができるかを考え、周りの人と協同しながらサービスを形にしていき、フィードバックを得ながらまた挑戦するといった、一連のサイクルを実行に移せるまたとない機会をいただいています。

5. 就職先での感想は？一番印象に残っていることは？

ナイジェリアに来て思ったのは、「あれ、メディアで言われているナイジェリアとは良い意味でずいぶん印象が違う」でした。犯罪が多く、汚職にまみれており、人々はアグレッシブで、過激派武装組織がおり、オイルマネーに沸いていて、そのため外国人はターゲットにされやすい、など色々とネガティブなイメージで報道されている国ですが、実際には他の国の人と同じように大多数の人が温かく親切で、治安に関してもリスク管理をきちんと行い、周囲の状況にしっかり気を配っていれば日常生活に支障はなく、料理も美味しく、意外と過ごしやすい国だと感じています。空港についた時点から人々の印象がよく、空港職員の方も親切で、賄賂を要求された経験は一度もなく、会う人会う人がみな信心深いという印象もうけました。歴然とした貧富の差を目の当たりにすることもあります。貧しさに絶望することなく、将来はきっと良くなると楽観的に捉える人が多いようにも感じます。

アメリカで一緒に働く人たちがまさにエリート集団で恐縮してしまうくらい優秀だったのは予想の範疇だったのですが、ナイジェリアのベンチャーで一緒に働く人たちも本当に熱心で優秀、かつ女性が多かったのは嬉しい驚きでした。以前日本で働いていた時に何百社も取材・訪問した経験から、女性をうまく活用できる会社は伸びるという確信を得ていたのですが、それは世界中どこでも同じだと実感しています。私が現在いるパガテックはまだ出来て数年しかたっていない新しい会社ですが、どんな人にもアクセスしやすいサービスを提供することで人々の生活をより良く変えていくというミッションを掲げ、サービスユーザー数 100 万人を超える順調な成長を見せています。これだけの勢いと人材がいれば、本当にアフリカを代表する企業になることができるのではないかと期待しています。トレーニングや研修などで社員のキャパシティをあげる、パガテックのサービスを取り扱う提携先小・中規模企業の歳入を上げることで新たな雇用を作り出すことなどを目標に仕事をしていきたいと思っています。

6. 今後のキャリア・プランを教えてください。

平和を維持していくための弛まぬ努力の一つに、一人ひとりの人間開発や、健全なビジネスができる土壌を作ることがあげられると考えています。ですので、今後も引き続き、ビジネスと開発を通じた仕事をしていきたいと考えています。50代、60代の頃には、日本の若者のための教育者になりたいと考えています。それまでに、できる限り様々な場所で経験と実績を積み上げていきたいと思っています。UNDPでの仕事も本当によい経験だったので、キャリアのどこかで国連機関に戻って仕事をする機会もつくっていききたいと考えています。



【アフリカで子供たちと一緒に】

7. 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

平和構築人材育成事業は、体系的に学ぶことができ、学んだことを国際機関で実践でき、更に素晴らしい人的ネットワークが得られるまたとない機会です。また、私もそうでしたが、民間企業での経験のみでそれまで国際機関で働いた経験がなくても挑戦できるチャンスでもあります。興味をもたれましたら、ぜひ挑戦してみてくださいと思います。研修参加者での期を超えた交流もありますので、いつかお会いして意見交換をすることもあるかもしれません。そんな日がくることを楽しみにしています。

(了)